

宮城・歌津はわかめ支援！



わかめ養殖の浮き玉

歌津の馬場中山集落では 86 世帯の方々が生活していましたが、津波により 96%の家屋が全壊しました。南三陸でも被災度が最も高い地域の一つと言われています。同集落の主産業はわかめ、かき、のり、ほやの養殖業です。特にわかめ

養殖は水揚げ高が最も大きい重要な産業となっていますが、船・ロープ・浮き玉・碇から成る養殖用資材、そして加工施設は全て津波で流されてしまいました。カリタスジャパン・SDSCは、かき、のり、ほやと比較して、育つサイクルが1年未満と短いわかめ養殖業の復旧を支援することで、集落の方々の生活復興に向けた歩みを少しでも後押ししたいと考えています。プロジェクトパートナー団体は漁協馬場中山集落わかめ部会で、船は自分たちで調達努力をし、加工施設は国からの支援を見込む中、カリタスジャパン・SDSCは資材調達資金を支援することで、津波前の4分の1までの養殖施設の復旧を目指します。この支援は、米川ベーススタッフの志津川での活動からつながりました。



歌津漁港と支援物資！

船を運ぶのは船？！

気仙沼では津波で養殖用の船が 8割流され、養殖業の再開が難しくなっています。漁協が養殖業者をグループ分けし、残っている数隻を各グループに配分して利用してもらうという、漁船の共同所有を進めているものの、メンバーが使うタイミングが同じであるため



ふねを運ぶ船！

に使いまわしが難しいという理由でほとんど実施されていません。そこで、気仙沼の大谷と本吉地区の養殖業者が元漁協役員を中心に、自分たちでどうにか船を調達して養殖を再開させようと動きました。この動きの概要は、彼らが船を必要としている養殖業者を募り、北海道のNPOが漁の後継者が減少したことにより使われていない中古船を北海道の漁協を通して無償で集め、カリタスジャパンが集めた船を気仙沼まで輸送する資金を支援するかたちです。10月13日に 93 隻の船が気仙沼に輸送され、船を必要とする方々の元へ届けられました。



船の中のふね！

釜石のイルミネーション



聖堂から庭木へ 左
聖堂からマリアさまへ 右



寒い仮設にぬくもりを！



みなし氏仮設住宅に入れる暖房機器

「プレハブの仮設住宅は寒い！」ということで、国は国庫を開いてプレハブの外側に断熱加工を施し、風除室を設置し、さらに追加の暖房器具を入れることを決定しました。ところが、仮設住宅はプレハブだけではありません。民間賃貸アパートや雇用促進住宅などを仮設住宅と「見なす」いわゆる「見なし仮設住宅」にも大勢の方が住んでおられます。こちらの方は災害救助法対象外となるため国のお金は出ず、いつも支援の格差が問題になってきました。

そこで、様々な民間支援団体が協力して、岩手、宮城、福島被災者が入るすべての見なし仮設住宅に暖房器具を配布する方向で調整を進めています。岩手の動きが一番速く、12月に入る前にはほとんどの世帯に配り終えています。カリタスは 3900 世帯に配布しました。宮城は 12月に入ってから配布が始まり、年内に終わる予定です。カリタスは仙台市の 9100 世帯を、難民を助ける会と共に担当します。福島は現在準備中ですが、難しいのは、県外への避難者が非常に多いということです。住所確認や市町との調整に時間がかかるため、まず県内から先にはじめ、すぐに県外も配布を始められるよう、県、市、支援団体で調整を進めています。

サポセン人物リレー その1

仙台サポセン常勤スタッフ

カトリック元寺小路教会信徒 三明 昌美

3月11日の大震災で被災しましたが、私も家族も無事でした。津波で家族や家を失った方、原発のため避難生活を余儀なくされている方がたくさんおられる中で、普通に生活できる自分を申し訳なく感じていました。その後、サポートセンターを手伝わせていただくようになり、一緒に働く仙台在住のスタッフの多くが、私と同じような「申し訳なさ」を抱えているのだと気づかされました。そして、全国から来てくださるボランティアさんたちも、似たような気持ちを抱いて、ボランティア活動に参加されているのだとわかりました。



強力なシスターの間でも動じない三明さん！

サポートセンター主催の傾聴講座の中で、「傾聴とは、被災者の心に寄り添うこと、悲しみに寄り添うこと」と教えていただきました。受付業務というデスクワークをしている自分が役立っているのか、自信の持てない毎日でしたが、震災から半年以上経過して、私の心に刺さっている「申し訳なさ」「無事であることへの罪悪感」は、被災地を忘れないための大切な錨なのだと思います。

こまつのみたて！

太陽と月を三つずつ持ち、おまけに日の光が二つで美しい！

なんと明るい名前なのか！この明るさに仙台サポセンは何度救われたらう？ 寂しいかな、ひょうきんで明るいサポセンの元気印は鹿児島へ引っ越すと言う。鹿児島がどれだけ明るくなるだろう！いや、仙台サポセンが鹿児島に支部を作りたい。何よりも息災に！